

第4号議案

社会資本整備総合交付金事業(道路改築)

一般県道 安中富岡線

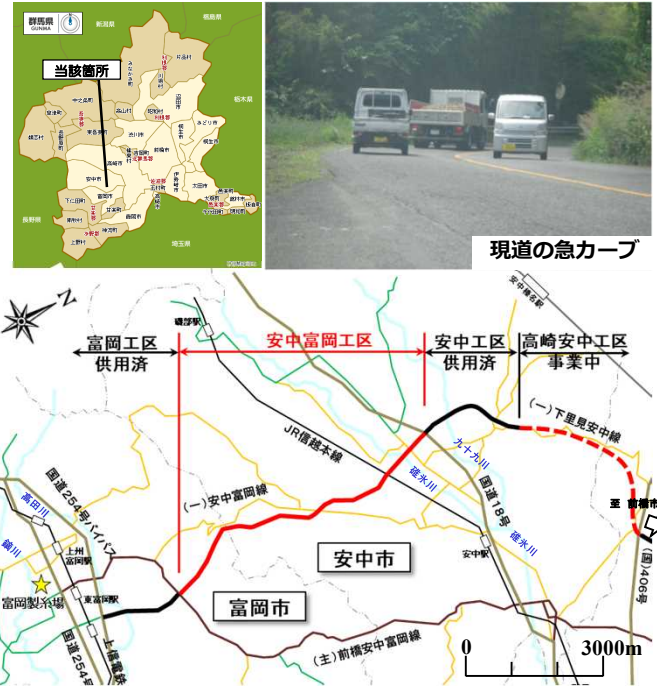
西毛広域幹線道路 (安中富岡工区) 安中市～富岡市

着手年度
評価理由平成28年度
事業費の増額

1. 事業の概要

県土整備プランの位置づけ 政策1:災害レジリエンスNo.1の実現
施策3:防災インフラの整備(中長期レジリエンス戦略)

- 西毛広域幹線道路は、県都前橋を起点とし、高崎市、安中市、富岡市の県西部主要都市を結ぶ延長27.8kmの広域幹線道路である。そのうち、本工区は、安中市安中から富岡市上高尾に至る延長約5.9kmのバイパスである。
- 本工区と平行する県道安中富岡線の現道は、安中市内南部と富岡市内北部地域を結ぶ山越えルートであり、急勾配、幅員狭小、急カーブが連続する線形不良箇所があり、災害時に通行の支障をきたすおそれがある。
- 本事業により、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークを構築するとともに、物流の効率化や観光振興などによる地域経済の活性化が図られる。



事業場所	安中市安中～富岡市上高尾	
区分	従前の計画公表値	今回
全体事業費	11,200百万円	18,400百万円
全体事業費増減の理由	—	・資材価格や労務単価高騰による増額 ・軟弱地盤対策の追加による増額 等
事業期間	H28～R11	H28～R11
事業内容	道路延長 5,850m 幅員 10.5m	道路延長 5,850m 幅員 10.5m

2. 進捗状況

事業経緯

年度	主な経緯
H28	事業着手 測量調査
H29	地元説明会 道路詳細設計
H30	用地買収着手 工事着手

進捗状況

	全体計画	前年度までの進捗状況 (進捗率)
事業費	18,400百万円	7,470百万円 (40.6%)
用地買収	196,041m ²	181,353m ² (92.5%)
計画延長	5,850m	0m (0.0%)

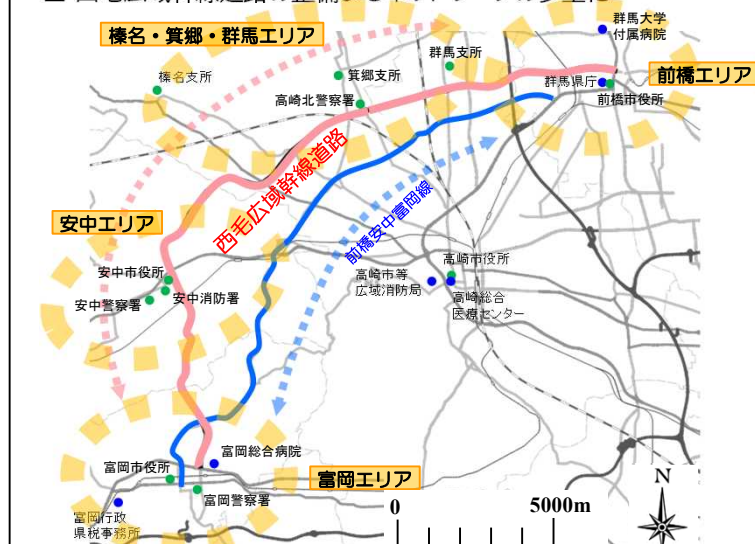
2. 進捗状況(図面・写真等)



3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・西毛広域幹線道路は、「災害時にも機能する強靱な道路ネットワーク」を構成する路線として、広域的な救命救助や被災地への支援物資輸送、経済活動の継続性を確保するため、防災拠点や物流拠点が集積する防災・物流拠点集積エリア間を連携する強靱なネットワークを構築する道路であり、近年、水害等の気象災害が頻発化・激甚化するとともに令和6年能登半島地震を踏まえると、エリア間を結ぶルート多重化を図る道路整備の必要性はさらに高まっている。
- ・また、本工区に平行する県道安中富岡線の現道区間は、急勾配、幅員狭小、線形不良区間が多いことから、本区間を整備することで、安中市と富岡市を結ぶ新たな交通軸が形成され、地域間の安全かつ円滑な移動に大きな効果を発現できるため、本工区を整備の必要性に変化はない。

■ 西毛広域幹線道路の整備によるネットワークの多重化



■ 現道の幅員狭小箇所(富岡市下黒岩交差点)





5. 事業手法やコストは妥当か？

【前回評価時の計画(事業費)を変更する理由】

[主な事業費の増額]

1. 資材・労務単価の高騰及び諸経費の増加(+46.2億円)

・鋼材単価が平成28年から令和6年で2.5倍、また普通作業員単価が1.3倍になるなど、近年の資材・労務単価の高騰の影響を強く受け、工事費が増額となる。

2. 橋梁工事費及び軟弱地盤対策工事費の増加(+9.8億円)

・橋梁の詳細設計にあたり下部工施工位置でボーリング調査を実施したところ、山寺入橋及び小萩山橋については、支持層が想定よりも深いことが判明したため、深礎杭などの基礎工事が必要となり工事費が増額となる。また、富岡市内の本線盛土部の基礎地盤を調査したところ、想定よりも地盤が軟弱であることが判明し、新たに地盤改良工事が必要となり工事費が増額となる。

3. 埋蔵文化財調査費の増加(+10.0億円)

・用地買収が完了した箇所の試掘を行ったところ、縄文時代から古代にかけての竖穴建物等の遺構が新たに確認され、発掘調査が追加となったため、調査費が増額となる。

4. 建物補償費の増額(+6.0億円)

・用地取得にかかる建物等の詳細な物件調査を行い、補償金額を算定したところ、建物移転等にかかる補償費が増額となる。



【今回の変更計画の妥当性】

- ・橋梁基礎工事の追加については、基礎構造の検討にあたり、複数工法の比較検討を行った結果、施工性やコスト面等に関する優位性が高い工法(深礎杭)を採用しており、変更計画は妥当である。
- ・本線盛土工は、工区全体の土量バランスを考慮したうえで計画されているが、基礎地盤の解析の結果、軟弱地盤の存在によるすべり破壊の対策が必要となり、これに対応できる工法として、他に比べ経済的に優位なセメント系固結材を用いた固結工法(中層混合処理工法)を採用しており、変更計画は妥当である。
- ・埋蔵文化財調査の増加は、詳細な調査や試掘の実施によって判明したものであり、やむを得ず調査費が増額となる。

【事業費の縮減に向けた取り組み】

- ・本工区では、安中市内の連続する盛土区間や、富岡市内の谷を越える盛土区間で多くの盛土材を必要とするが、西毛広域幹線道路全体で土量管理・工程調整を行い、発生土を調達することで新たな盛土材料購入などの費用を抑え、事業費の縮減を図っている。

6. 事業実施にあたり、配慮した事項はあるか？

- ・本工区の一部区間(安中市内)は景観誘導地域に指定されていることから、工区全体で道路からの眺望を確保するため、周辺の山々と馴染むように案内標識柱や防護柵にグレーベージュを使用する計画としている。

■防護柵の施工事例



■道路案内標識の施工事例



7. 事業が長期間要している理由と今後の見通しは？

- ・事業延長L=5.9kmと事業規模が大きく、地元調整、用地取得、埋蔵文化財調査及び橋梁等の大型構造物の施工により、事業完了までに長期間を要する計画となっている。
- ・昨年度末までに9割を超える用地取得が完了しており、順次、埋蔵文化財発掘調査を進めているが、試掘によって新たな遺構が確認され、発掘調査が追加となっている。
- ・また想定外の軟弱地盤により、橋梁基礎工事や地盤改良工事が追加となっているが、用地買収や文化財調査が完了した箇所から、順次改良工事や橋梁工事などを進めており、事業完了は現計画と同様に令和11年度となる見込みである。

■完成予想図(安中市内:碓氷川橋梁付近)



■埋蔵文化財調査の様子(安中市上間仁田地内)



8. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし ・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

- ・本事業は、道路ネットワークの多重化による災害時にも機能する強靱な道路ネットワークの構築とともに、地域の産業や観光振興に寄与するほか、地域間連携の強化、生活圏拡大による県民生活の利便性の向上が期待されており、本工区を含め早期の全線開通が求められている。
- ・本工区に平行する県道安中富岡線の現道は、すれ違い困難な幅員狭小区間や、急カーブが連続する線形不良区間があり、災害時の道路閉そくや、見通しの悪い縦断勾配の影響で交通事故の発生が危惧されている。当該工区が整備されることで、安中市と富岡市を結ぶ新たな交通軸が形成され、地域間の安全かつ円滑な通行が確保されるとともに、車道と分離した歩道を整備することにより、歩行者の安全が確保されることから、本工区を整備する必要性は高い。
- ・一方で、資材価格や労務単価の高騰、橋梁工事費等の増加や埋蔵文化財調査費用の増加等により事業費が増額するが、西毛広幹道全体で建設発生土を一体的に管理・調整することで、盛土材購入にかかる費用を抑え、事業費の縮減を図りながら、令和11年度の完成に向け、事業を進捗させている。
- ・以上のことから、本事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であるため、事業継続が妥当である。

9. 市町村意見

市町村	再評価における意見
前橋市	全線開通することで地域の利便性が向上し、西毛地域との交流・連携が促進されるため、西毛広域幹線道路の一日も早い全線開通に向けて、特段の配慮をお願いしたい。
高崎市	本工区は、本市は含まれていないものの、富岡ICを利用した県外へのアクセス向上や災害時の強靱なネットワーク構築、地域間連携の強化など必要性が高い工区であり、早期の事業進捗をお願いしたい。
安中市	本路線は、前橋市、高崎市、安中市、富岡市を結び、周辺地域の渋滞緩和や物流の効率化、観光振興に寄与すると共に、災害時にも機能する強靱な道路ネットワークに位置づけられている重要な路線であるため、本工区のほか全線の早期整備をお願いしたい。
富岡市	当該工区を含む西毛広域幹線道路は、県央地域と西毛地域をつなぐ重要な路線であり、周辺道路の渋滞緩和や発災時の道路ネットワーク確保、周辺地域の観光振興を図る上で必要な道路であるので、早期の整備をお願いしたい。